

【熊本県賞】

水の恵み エコな地球を作る

熊本県 天草市立新和中学校 三年 平道 圭樹

これは僕が小学校低学年の頃の話だ。そのときはちょうど夏休みだったので、家族で熊本県にある祖父の家へ行っていた。当時、祖父は養豚場を経営しており、それがどのようなものなのか気になった僕は見学をさせてもらうことにした。

豚に餌をあげるところや、子豚が生まれる瞬間など、普段は見ることはできないようなことも見ることでできた。一通り作業の説明が終わったあとには、施設の紹介してもらった。豚舎の中やその事務所の中を見学した後、次に見たのは排水処理場だった。いくつかの排水桝が並んでいて、その中には濁った水が貯まっていた。祖父曰く、この水は豚を飼育する際に出た水だと言う。僕は、こんなに大量の水をどこへ運んでいるのか気になって聞いた。すると祖父は、

「この水はきれいにして近くの川に流しているんだ。」

と答えた。僕は目の前の汚水が綺麗な水になるイメージがつかず、続けてこう聞いた。「こんな汚い水を川に流して大丈夫なの？」祖父は言った。

「川の水と変わらないくらい綺麗な水になるから大丈夫だよ。」
と。信じられないものの、排水施設の奥へ進むとその話は本当なのだと分かった。目の前には茶色に濁った汚い水などなく、透き通った綺麗な水がそこにはあったのだ。そしてそこから流れる水は、流されるとすぐに川の水と馴染み、もうわからなくなるほど自然の水と大差なかった。

この体験から約一年後、僕は小学校の授業で浄水場の仕組みについて学習した。教科書の資料や動画を見ながら学習し、水への理解を深めた。先生からも

「水を大切にしなければならぬ」

と言われ、「おじいちゃんの取り組みも水を大切にしている活動の一つなんだな。」と思った。だが、ここで一つの疑問が生じた。「水はなぜ再利用され続けているのだろうか」ということだ。水を大切にしないといけない

ということとはわかる。しかし、地球にはまだ沢山の水があるのにも関わらず、できるだけ少ない水でやり繰りすることに意味はあるのだろうか、気になりはしたものの、この時の僕はあまり深く考えず、調べなかった。だからこそ中学生になった今、水が環境に与える影響について改めて調べてみることにした。調べて行くにつれ、水が地球の中で循環していることが分かった。それを人類は使っているのだからこそ無駄に使うことなく大切に使わなければならないことを改めて感じた。祖父が水を大切にしていることを誇りに思った。